

杏林大学産婦人科専門研修プログラム

A. 概要

杏林大学専門研修コースでは杏林大学医学部附属病院産科婦人科を基幹施設とし、連携指導施設とともに医療圏を形成して専攻医の指導にあたる。これは専門医養成のみならず、地域の安定した医療体制をも実現するものである。さらに、指導医の一部も施設を移る循環型の医師キャリア形成システムとすることで、地域医療圏全体での医療レベルの向上と均一化を図ることができ、これがまた、専攻医に対する高度かつ安定した研修システムを提供することにつながる。

研修は、原則として、杏林大学病院およびその連携病院によって構成される、専攻医指導施設群において行う。研修の順序、期間等については、個々の産科婦人科専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、杏林大学産婦人科専門研修プログラム管理委員会が決定する。

B. 杏林大学専門研修コースの具体例

・産婦人科専門医養成コース (*basic course*) ; 杏林大学医学部附属病院 2 年間で専攻医指導施設において 1 年間の合計 3 年間で専門医取得を目指すプログラムである。基幹施設研修を開始する研修コースを基本とし、周産期重点コース、婦人科腫瘍重点コース、生殖医学重点コースなどは個々の専攻医に希望に基づいて変更することが可能である。

初年度は原則的に基幹病院である杏林大学医学部附属病院産科婦人科において、6ヶ月間ずつ産科病棟と婦人科病棟に配属され、周産期および婦人科腫瘍患者の診断・治療について研修する。またこの間、適宜不妊内分泌外来や更年期外来などにおいて外来診察の実際を研修しながら、不妊内分泌や女性のヘルスケアについても学習する。2年目は、原則的に症例数が豊富な連携病院（総合型を含む）において、不妊内分泌、周産期、婦人科腫瘍、女性のヘルスケア全部門に関して万遍なく研修を行い、検査・診断等の技術を習得する。

【連携病院実績：H26～29】

武蔵野赤十字病院（東京都武蔵野市）

国立病院機構埼玉病院（埼玉県和光市）

さいたま市立病院（埼玉県さいたま市）

東京歯科大市川総合病院（千葉県市川市）

那須赤十字病院（栃木県大田原市）

自治医科大学附属さいたま医療センター（埼玉県さいたま市）

3年目以降は再度基幹病院である杏林大学医学部附属病院産科婦人科において研修を行うが、その際には2年目の研修病院において研修が不十分な分野があればそれを考慮して産科病棟・婦人科病棟に配属し、専門医取得に必要な技術を習得する。またこの期間において、専攻医の希望に応じて周産期重点コース、婦人科腫瘍重点コース、生殖医学重点コースなど、各分野に重点を置いた研修を行う。なお3年目以降の研修においては、専攻医の受け入れ人数や本人の希望に応じて、地域医療を担う連携施設での研修や、不妊内分泌に特化した不妊専門クリニックでの研修なども行うことも可能である。

専攻医週間スケジュール (例)

	産 科		婦 人 科	
	午前	午後	午前	午後
月曜	医局会(月1回) 振り返り (医局会のない週) 病棟カンファ 助産師との連絡会 各チームによる回診 手術/病棟	手術/病棟 学生クルグス 各チームによる回診後、当直へ申し送り 超音波外来：ショート レクチャー&振り返り 予演会等	医局会(月1回) 病棟カンファ 手術/病棟/外来	手術/病棟/外来 オペ前カンファ 予演会等
火曜	各チームによる回診 MFICU プリーフィング ガイドラインやACOGを 読もうよ 病棟 医局にてランチセミナー	病棟 各チームによる回診後、当直へ申し送り 遺伝カンファ(月1回) ミニシミュレーション(月1回)	病棟/外来	病棟/外来
水曜	各チームによる回診 MFICU プリーフィング * ガイドラインやACOGを 読もうよ 手術/病棟	手術/病棟 各チームによる回診後、当直へ申し送り 糖尿病カンファと勉強会 (月1回)	手術/病棟/外来	手術/病棟/外来 腫瘍カンファ(隔週) 放射線カンファ 病理カンファ(月1回)
木曜	各チームによる回診 MFICU プリーフィング 小児外科カンファ(月1回) 病棟 ガイドラインやACOGを 読もうよ	病棟/検査 関連病院の先生からの レクチャー 初期研修医クルグス[ER で出会う婦人科疾患] 各チームによる回診後、当直へ申し送り	病棟カンファ 病棟/外来	病棟/検査
金曜	各チームによる回診 MFICU プリーフィング NICU とのカンファ 手術/病棟	手術/病棟 各チームによる回診後、当直へ申し送り	手術/病棟/外来	手術/病棟/外来
土曜	各チームによる回診 MFICU プリーフィング 病棟		病棟カンファ 病棟/外来	

産科婦人科共通事項

・産婦人科専門医大学院研修コース；杏林大学医学部附属病院で研修をしながら、大学院にも在籍し、専門医取得と並行して医学博士号を取得するためのプログラム。当大学では社会人大学院生制度が導入されており、通常の業務を行いながら、医員としての給与を貰いつつ基礎研究を行うことが可能であり、大学院の間、最低1年間は病棟業務を免除し、研究に専念することが可能である。研究成果は原則英文で国際雑誌に発表し学位論文としている。

・女性医師支援研修コース；女性医師で結婚しているために研修に十分時間がとれない場合のプログラム。女性医師の子育て支援のため、日勤帯を基本とした研修プログラムを個々の女性医師専攻医の希望に合わせて作成する。研修期間は3年を基本とするが、研修進捗状況に合わせて延長も考慮して変更することが可能である。

・復帰支援研修コース；妊娠・出産などで一時的に職場を離れた場合の復帰を支援するプログラム。女性医師支援研修コースと同様に日勤帯を基本とした研修プログラムを個々の女性医師専攻医の希望に合わせて作成する。研修期間は3年を基本とするが、研修進捗状況に合わせて延長も考慮して変更することが可能である。

C. サブスペシャリティの専門医の取得

杏林大学産婦人科研修プログラムは専門医取得後に以下の専門医・認定医取得が可能である。

- ・日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医
- ・日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医
- ・日本生殖医学会 生殖医療専門医
- ・日本女性医学学会 女性ヘルスケア専門医
- ・日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医
- ・日本超音波学会 超音波専門医
- ・日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医
- ・日本臨床細胞学会 細胞診専門医

専門医取得後には、「サブスペシャリティ産婦人科医養成プログラム」として、産婦人科4領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動も提示する。

D. サブスペシャリティの取得のための専門コース

産婦人科専門医取得後には、希望に応じて各サブスペシャリティの専門医を取得する重点コースを設けている。重点コースには5コース（生殖・内分泌重点コース、婦人科腫瘍重点コース、周産期重点コース、女性のヘルスケア重点コース、内視鏡手術重点コース）を設け、各研修プログラムに特徴を持たせ、専門医研修コースに入るまでに、個々の目的に合わせたキャリア形成を早期から図ることができる。

- a) **生殖・内分泌重点コース**：不妊患者の診断・管理・治療を不妊専門外来において専門医の指導のもとに研修を行う。また不妊治療に特化した連携施設での研修も随時行いながら、将来的に生殖専門医の取得を目指す。
- a) **周産期重点コース**：正常妊娠の診断・管理・分娩に関わる知識・技術の習得、胎児診断の基礎的技術の習得、新生児管理の基礎的技術の習得を行いながら周産期専門医の取得を目指す。希望があれば小児科との連携のもとに NICU での研修も行う。
- b) **婦人科腫瘍重点コース**：婦人科腫瘍専門医（5名）の指導の下、婦人科悪性腫瘍の診断に要する各種検査方法・病理学診断と治療計画立案に関わる知識・技術の習得、腹部手術の基本手技から解剖に則った骨盤外科手技を習得、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌における手術療法、術後化学療法、放射線療法など集学的治療を学び、癌治療における全般的な知識と治療経験を積む。また院内緩和ケアチームと協力しながら終末期医療に対する知識や技術も習得できる。定期的な病理カンファレンスの他に、希望者には病理学教室との連携のもとに細胞診や病理組織診断の研修も行う。これら研修を通じて婦人科腫瘍専門医や細胞診専門医の取得を目指す。
- c) **女性のヘルスケア重点コース**：閉経という女性が必ず迎える内分泌的な変化以降に生じる多くの疾患を管理しトータルヘルスケアを目指す。また若年者の月経不順や、特に当院では若年悪性腫瘍患者で内性器全摘や放射線治療によって性腺機能が廃絶した症例において悪性腫瘍治療後のホルモン補充療

法や脂質代謝異常、骨粗鬆症などの予防や治療に関して力を入れており、これら症例について専門外来を通じて研修を行い、女性医学学会専門医の取得を目指す。

- d) **内視鏡手術重点コース**：婦人科病棟に主に配属され、内視鏡技術認定医（2名）の指導のもと、内視鏡手術の実際を研修し、術者としての技術習得を行う。また当科では院内のドライラボでの研修や、年2～3回程度外部の内視鏡トレーニングセンターでの内視鏡訓練を行い技術の向上を目指している。

以上の各重点コースでは、上級指導医の指導の下で、症例発表以上の学会発表と論文作成を到達目標に入れている。

指導スタッフ

- ・岩下光利（教授、病院長）慶応義塾大学卒
日本産科婦人科学会専門医、日本生殖医学会生殖医療指導医、日本周産期・新生児医学会暫定指導医
- ・小林陽一（教授）慶応義塾大学卒
日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会腫瘍指導医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本がん治療認定医機構がん治療指導医、日本臨床細胞学会細胞診教育研修指導医
- ・谷垣伸治（准教授）慶應義塾大学卒
日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本周産期・新生児医学会専門医・指導医 新生児蘇生法「専門」コースインストラクター、日本超音波医学会 超音波専門医・指導医、日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医、The Fetal Medicine Foundation 認定 NT certificate (NT 資格)、ALSO Japan 認定インストラクター、日本母体救命システム普及協議会インストラクター
- ・松本浩範（講師）杏林大学卒
日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科学会腫瘍専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・長島隆（講師）北里大学卒

日本産科婦人科学会専門医、日本周産期新生児医学会 新生児蘇生法専門インストラクター、日本抗加齢医学会 抗加齢医学専門医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医

- 百村麻衣（学内講師）杏林大学卒
日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科学会腫瘍専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 井澤朋子（学内講師）杏林大学卒
日本産科婦人科学会専門医
- 西ヶ谷順子（学内講師）聖マリアンナ医科大学卒
日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科学会腫瘍専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 澁谷裕美（助教）杏林大学卒
日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科学会腫瘍専門医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 松島美穂（助教）杏林大学卒
日本産科婦人科学会専門医、日本周産期・新生児医学会専門医、日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医、The Fetal Medicine Foundation 認定 NT certificate (NT 資格)
- 長内喜代乃（助教）杏林大学卒
日本産科婦人科学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 田中啓（助教）東京大学卒
日本産科婦人科学会専門医、日本周産期・新生児医学会専門医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医